



たかはし・たい ● 1986年、金沢大学医学部卒業。同年、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部系大学院医学博士課程修了(医学博士)後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2009年から同大学院教授、16年から同大学医療福祉学部長・教授、18年より現職。

高橋 泰

国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長・教授

なぜ

国際医療福祉大学の新学部は

Psychology & Management

「心」と「経営」なのか!

——医療・福祉の現場で臨床心理とマネジメントのエキスパートが求められているからである

2018年4月、国際医療福祉大学は新設の東京赤坂キャンパスで、「赤坂心理・医療福祉マネジメント学部」を開設した。学科は「心理」「医療マネジメント」の2つ。東京の中心「赤坂」の国道246号線沿いに12階建ての新キャンパスが出現し、これまでの医療系大学の学部構成とは大きく異なる学部が誕生したので、医療界内外で大きな注目を集めている。そこで今回は、同学部の高橋泰学部長に、学部設立の経緯やめざす人材像などを聞いた。

実社会で求められる臨床分野の心理専門家

——国際医療福祉大学は1995年に開学し、医学部も含めた医療福祉の総合大学として知られますが、今回、なぜ「心理」と「医療マネジメント」の学部を設けたのでしょうか。

高橋 今後、人工知能やビッグデータの活用が進む一方、ストレスが増大することが予想されます。新しい学部を開設するにあたり、このような社会の変化に医療が対応しようとするとき、最も必要となってくる分野は何かという議論を重ねました。その結論が、「心のケア」と「データに基づいたマネジメント」です。この2つの分野は、今後の日本の医療が社会の急速な変化に対応する時に欠かせなくなってくる分野であり、今後これらの分野の人材の需要が急拡大する分野であると判断しました。

まず「心のケア」ですが、土台となるのが心理学です。学問領域で

分けると大きく臨床分野と非臨床分野の2つがあります。どちらかというとこれまで研究者が熱心に取り組んできたのは後者で、そのおかげもあって、心の働きのさまざまなことがわかってきました。日本の多くの心理学科は文学部に属し、後者の非臨床分野の心理学科がほとんどです。

一方、前者の臨床分野は発展途上で、かつ、社会からはこの分野のエキスパートが求められています。たとえば「心療内科」を標榜するメンタルクリニックの数はどんどん増えていきますし、一定規模以上の事業所には従業員に対するストレスチェックが法的に義務づけられました。そこで活躍しているのが臨床心理士という資格を持つ人たちですが、新たに「公認心理師」が国家資格として制度化され、2018年9月に第1回の認定試験が実施されます。現場の心理の専門家はますます求められているのです。こうした分野で活躍できる人材を育てるのが「心理学科」の目的です。

教授陣・実習とも「臨床」を念頭に置いた体制

——教授陣は臨床心理のエキスパートが集まり、さらに実習体制も充実させたそうです。

高橋 中田光紀・学部長は労働安全衛生研究所研究員を務めた後、アメリカの国立労働安全衛生研究所チームリーダーとして活躍し、日本で遅れている公衆衛生におけるメンタルケアとそれに関するデータ活用では特に手腕を振るってきた人物で、この分野では国内屈指のエキスパートです。さらに著

書も多くマスコミにも登場している和田秀樹先生も教授に就任しました。ほかにも、現場での経験が豊富な教授陣が揃っています。

最大の特徴は何と云っても「臨床経験を積める」という点です。公認心理師の試験は大学の学部(心理学)を卒業後、心理学系大学院で2年間の修士課程を修了した後、資格試験を受験し、合格することが求められますが、就学している間から大学のグループ病院である国際医療福祉大学三田病院での実習がカリキュラムに盛り込まれています。豊富な実習経験を積んだう

で試験に臨めますし、さらに言えば就職も、たいへん有利です。

成長産業と注目される医療「マネジメント人材」が不可欠に

高橋 医療分野は日本における「成長産業」として注目されています。

理由は高齢者が増えて医療需要が増えることと、また世界的にも医薬品や医療技術が進歩していることです。雇用者数推計予測を見ても一目瞭然です。2012年時点で卸・小売業者は1093万人でしたが、2030年には867万人に減ると見込まれています。同じく製造業は1032万人から926万人。ところが医療・福祉分野は706万人から944万人に増えると予測されています。就業者別で言えば2030年には国内最大の産業になるのです。

ただ、この巨大産業である医療には、効率的な働き方、組織運営、そして収益をしっかりと確保する『マネジメント』という考え方は、これまでほとんど取り入れられてきませんでした。しかし財政のひ

迫や、働き手が減っていくなどの要因により医療にも『マネジメント』が必要という考え方が広まってきているのです。

医療情報分析のスペシャリスト活躍の場は多方面に広がる

——具体的にはどのようなスキルを身につけるのでしょうか。

高橋 マネジメントの質を高めるうえで特に重要なのが「データの活用」で、その技術を徹底的に修得させます。医療界に限らず、経営へのデータ活用は今、大変注目されています。たとえばコンビニエンスストアでもICタグを改良してどの商品がいつ、どの程度、どこで、どんな客層に売れたかを追跡できる仕組みの開発が盛んに行われています。

企業のデータ活用の進化は、大きく3段階に分かれると言われています。第1段階は、1つの企業にデータ解析の専門家が1人だけいる状態。モノ好きな社員が一人で孤独な作業をしているというケースもありました。第2段階が、

「実践」の強み生かした新学部を開設!

充実した現場実習を背景に 即戦力の育成に定評

国際医療福祉大学は1995年に開学して以降、医療・福祉現場で役立つ人材を輩出しつづけてきた。17年4月に開設した医学部は外国籍の医学生も学ぶなど、大学名を地でいく取り組みを続ける。ここではそんな同大学が新設した「赤坂心理・医療福祉マネジメント学部」の概要を紹介する。

もともと同大学は「実践」に強いのが特長だ。全国各地からの求人数は学生1人当たり約77人。就職率も毎年100%で、ランキングでも常に上位につけている。さらに国家試験合格率も全国トップクラスで、2016年度は看護師、保健師、理学療法士、視能訓練士

院も擁している。国際医療福祉大学は1995年に日本初の医療福祉の総合大学として栃木県大田原市に開学した。17年4月には千葉県成田市に医学部を開設し、現在は5つのキャンパスに9学部22学科があり、大学院も擁している。

実践に強い国際医療福祉大 求人・採用率も高水準をマーク

この実績を支えるのが充実した教育体制で、医療・福祉分野で実績を残す優れた教員が多数在籍しているほか、5つの附属病院のほか多くの関連病院・施設を有し、充実した臨床実習体制を敷く。大学院では医療・福祉分野の第一線で活躍する人材も学び、医療・福祉界の発展に向け切磋琢磨している。

東京赤坂から医療福祉経営の スペシャリストを送り出す

2018年4月に東京都港区赤坂に開設した東京赤坂キャンパスは、生涯教育や地域交流の拠点をめざす。キャンパスは東京メトロ丸の内線、銀座線の赤坂見附駅から徒歩3分という好立地。建物は地下1階地上11階建てで、1000人を収容できる講堂や図書館、体育館などを備える。

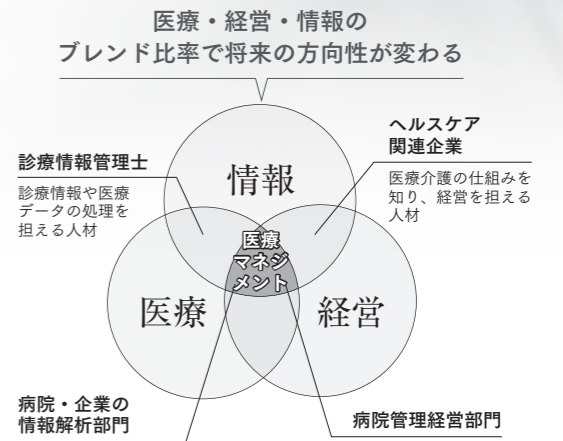


赤坂心理・医療福祉マネジメント学部に関するお問い合わせ

国際医療福祉大学
東京赤坂キャンパス
TEL: 03-5574-3900
Eメール: tokyo.s.c@iuhw.ac.jp



企業に1つのデータ解析の専門部門が立ち上がり、ここでデータ収集とデータ解析を行う人材を集約し、解析を行うという状態。多くの日本の大企業はこの段階です。今後、データ活用はさらに進展し、情報活用が第3段階まで進んだ組織になるといわれています。第3段階になるとデータ解析の専門部門はなくなり、部門を問わず社員が多くが社内社外のデータベースからデータを集め、解析し、自らの仕事に役立てていくこととなります。世界を見渡すと一部の企業



ではすでに実現しており、グーグルはその一例です。インターネットも第1段階に相当する初期の頃は、扱うにはかなりの工学的な専門知識が必要な技術でした。しかしスマホでインターネットにアクセスできる現在の第3段階になると、慣れれば誰でも使える技術になりました。データ解析と言うと難しそうに聞えますが、第3段階になると、慣れればあまり専門知識がなくとも、簡単に扱えるツールが普及してきます。医療マネジメント学科では、日本で最大の産業となるヘルスケアの世界で、情報活用が第3段階まで進んだ組織において、そこで働くために必要となる知識やスキルを基礎を、講義や演習やゼミを通して学ぶことができるようなカリキュラムを用意しました。

しかし、データ処理の知識やスキルを身に着けただけでは、ヘルスケア分野で有用な人材になれません。ヘルスケア情報を取り扱うには、医療や経営の知識の修得が不可欠であり、図に示すように、情報と医療と経営の重なった領域が「医療マネジメント」である。我々は、考えています。医療マネジメント学科の学生たちは、1年次にはこれら3領域の基本を学びますが、2年次以降は自分の興味のある領域の講義をより多く履修することにより、3つの領域の知識やスキルブレンドの割合が変わり、将来の仕事の方向性が変わっていきます。たとえば診療情報管理に興味のある学生は、医療と情報との比率が高く、病院の経営管理部門やヘルスケア産業などで働きたい場合は、経営と情報の比率が高くなります。

——そのスペシャリストを育成するわけですね。
高橋 こちらも講師陣、教育環境とも国内屈指と自負しています。私自身、東京大学で日本初の医療情報に関する博士号を取得し、現在は国の未来投資会議「健康・医療・介護」会合の副会長を務めICTや人工知能などを活用した国の医療や介護の将来ビジョン作成にかかわっています。今回の学科

は、国の将来ビジョンが実現してきた時にヘルスケア領域で活躍できるような人材を養成することをめざしているとも言えるでしょう。DPCデータを中心に医療情報を活用して国の医療政策をリードする石川ベンジャミン光一教授をはじめ、この分野で現在、国の医療政策を担う第一人者が集結しました。

もう一つ大事なのが、こちらも「臨床現場」での研修を重視していることです。特に医療の場合、データを押しつけるだけでは現場は動きません。現場を熟知したうえでデータ解析の結果を提示し、現場とともに考え、経営改善につなげることが求められます。当学科では国際医療福祉大学の附属病院やグループ関連病院での実地研修が組まれています。この「現場を知っているかどうか」は、就職した後、とても大きな財産になるはずですよ。——ここから巣立つヘルスケア情報エキスパートが活躍するフィールドは無限にありそうです。ね。ありがとうございました。